



## &lt;来週の資金需給予想とイベント予定&gt;

(単位: 億円)

| 日付       | 資金需給予想  |          |          | 主な要因                 | オペ期日                      | オペスタート | イベント                                              |
|----------|---------|----------|----------|----------------------|---------------------------|--------|---------------------------------------------------|
|          | 銀行券要因   | 財政等要因    | 資金過不足    |                      |                           |        |                                                   |
| 3/7 (月)  | + 100   | ▲ 12,800 | ▲ 12,700 | 国庫短期証券<br>発行・償還 (3M) | CP買入 ▲ 300<br>社債等買入 ▲ 100 |        | 日: コール市場残高 (2月)                                   |
| 3/8 (火)  | + 1,000 | + 8,000  | + 9,000  |                      |                           |        | 日: 国際収支 (1月)<br>米: 貿易収支 (1月)                      |
| 3/9 (水)  | トン      | ▲ 9,000  | ▲ 9,000  | 国債発行 (5年)            |                           |        | 日: GDP (4Q)                                       |
| 3/10 (木) | ▲ 1,000 | ▲ 2,000  | ▲ 3,000  | 国庫短期証券<br>発行・償還 (6M) |                           |        | 日: 国内企業物価指数<br>米: CPI (2月)<br>欧: ECB政策金利発表・総裁記者会見 |
| 3/11 (金) | ▲ 1,000 | ▲ 9,000  | ▲ 10,000 | 国債発行 (20年)           |                           |        |                                                   |

## &lt;インターバンク&gt;

日銀当座預金残高は週初539兆7,100億円から始まった。2日には10年国債の発行や税・保険揚げ等により529兆5,000億円まで減少した。その後、大きな増減はなく529兆5,000億円を越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、△0.012%から始まった。地銀業態を中心とした調達サイドのニーズが底堅く、同金利は徐々に上昇し、週末3日積みとなる4日は△0.009% (速報) で越えた。

ターム物は年度内にエンドを迎えるものを中心に、△0.010%～△0.001%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内では8日に国際収支 (1月)、9日にはGDPの公表がある。海外では8日に米貿易収支 (1月) の公表があり、10日には米CPI (2月) の公表、ECB政策金利発表・総裁会見などがある。

## [無担保コールレート]

|     | 予想レンジ (%)      |
|-----|----------------|
| O/N | △0.085 ~ 0.001 |
| 1M  | △0.050 ~ 0.020 |
| 2M  | △0.020 ~ 0.050 |
| 3M  | 0.000 ~ 0.100  |
| 6M  | 0.000 ~ 0.130  |

## &lt;レボ&gt;

足許GC取引は週初△0.09%～△0.08%近辺で始まり、過後半まで同水準で推移した。短国3Mの入札が行われた7日受渡しの取引ではレートが上昇し、△0.07%近辺の出合いが見られた。SC取引は2年424～433回債、5年137～150回債、10年333～365回債、20年164～179回債、30年69～73回債、40年9～14回債などに引合いが多く見られた。

## [オープン市場]

|               | 予想レンジ (%)      |
|---------------|----------------|
| 現先<br>(on/1w) | △0.050 ~ 0.000 |
| CP 3M         | △0.090 ~ 0.000 |

## &lt;CP&gt;

今週の入札発行総額は約4,400億円で、週間償還額 (約4,900億円) を若干下回った。発行市場は、鉄鋼、機械、石油製品等にて大型の発行が見られたものの、案件少なく落ち着いたマーケットとなった。発行残高は先週末の26兆7,313億円から、3日時点で26兆3,484億円に減少した。発行レートは、期越え案件や希少銘柄を中心に深いマイナスレートでの応札が見られた。一方、大型発行銘柄等はややレート水準の上昇が見られた。

来週の週間償還額は、約1兆3,900億円となっている。発行市場は、例年、決算期末の有利子負債圧縮のため償還が増える見込みであるものの、海外情勢の先行き不透明感から、場合によっては予防的な資金調達ニーズによる発行も予想される。発行レートは、コロナオペ担保目的等の引受需要の強さから、希少銘柄や発行期間3M程度の期越え案件等はマイナスレートを中心とした出合いとなるであろう。

【レンジ】CP3M (a-1+) △0.100%～0.000% 現先取引 △0.050%～0.000%

## &lt;TDB&gt;

3月4日の3M1063回債の入札は、最高落札利回り△0.0856% (前回債△0.0837%)、平均落札利回り△0.0934% (前回債△0.0904%) となった。来週は3月9日に6Mの入札がある。3月11日に3Mの入札がある。